



佐々木ゆりか

◆水環境を守る取り組みについて

Q どんな洗剤も使いすぎないことが大前提だが、せっけんの利用促進について見解を伺う。

A 北広島市環境配慮物品購入指針において、廃油または動植物油脂を原料とする手洗い石けんの使用など環境配慮型製品等の調達に努めている。また小学校で実施する「エコクッキング事業」で食器洗浄時の洗剤の適正使用量などを啓発している。

◆上下水道事業について

Q 今後数年で取り組む経営強化の内容は。

A 給水収益の増加が予想されるが、物価高騰で動力費、修繕費の増が見込まれるほか、石狩東部広域水道企業団により受水費の値上げが検討されていることから引き続き健全経営に努めるとともに、将来の更新需要に備えることが重要と考える。

鶴谷さとみ

◆高齢者支援と介護に関わる施策について

Q ごみの庭先収集について、要介護認定や身体障害者手帳交付の他に、病気や歩行困難な状況等対象要件の見直しが必要と考えるが、見解は。

A 様々な理由により、ごみ出しが困難な方がいることから、相談・面談等を通じ状況を把握した上で庭先収集を行っている。



第4回定例会 民生常任委員会 鶴谷さとみ

新型コロナワクチン接種状況の報告において、接種後の健康被害に関し市民からの救済申請があったことを確認(1件)。国の審査結果は1年以上かかる見込みとことから、ワクチン副反応報告に加え、救済申請状況に関する市民への情報提供を求めました。

2023年第3回定例会 一般質問

9月19日

佐々木ゆりか

◆北広島の環境について

Q Fビレッジのバードストライクなどの状況について、事業者からの報告で市が把握している情報は。

A 全てがガラス壁の前というわけではなく、バードストライクかどうか定かではないが、開業からこれまでの件数は、野鳥十数件と伺っている。

◆暑さ対策について

Q 熱中症と思われる症状が出た児童・生徒を涼しい場所で休ませるため、保健室など、早急に冷房がかけられる場所を設けるべきではないか。

A 冷房設備の導入について検討をしていきたい。

鶴谷さとみ

◆新型コロナ5類移行後の生活について

Q 後遺症について、対応可能な医療機関の周知、職場復帰等の相談支援のしくみが必要。

A 相談窓口である千歳保健所と連携し、丁寧な対応に努めてきた。引き続き必要な支援を受けることができるよう協力・連携を図る。

◆市民参加・協働の推進について

Q 本市の転入者数は、年間約2,300名。地域住民とともに、コミュニティやまちづくりに関わる機会が重要と考えるが見解は。

A 北広島市市民参加推進会議からの提案のとおり効果的な情報提供を行っていきたい。

2023年第2回定例会 一般質問

6月22日

佐々木ゆりか

- ◆児童館未整備地区での子どもの居場所づくりについて、西の里複合施設の検討状況を確認
- ◆マイナンバーカード関連の全国的な紐づけ誤りを受け、個人情報保護の取り組みを確認
- ◆投票機会の確保のため移動投票所の充実について

鶴谷さとみ

- ◆ボールパーク開業に伴う渋滞、駐車場施設、路線バス混雑など、市民生活への影響について
- ◆困難な問題を抱える女性支援法に基づく本市の基本計画について
- ◆幼児・小学生のフッ化物洗口について
- ◆小学生・中学生の通級指導教室について



市議会インターネット映像配信はコチラ



佐々木ゆりか

Q 近年、火葬場が順番待ちで待たされるケースが全国的に相次いでいる。申込時に希望した日にちよりも待たされるケースはあったか。

A 2022年で順番待ちにより翌日以降の火葬になったケースはない。

Q コロナ禍でフッ化物洗口が数年中止されたが、この間のむし歯本数の推移は。また、洗口再開にあたっての保護者への情報提供は。

A 12歳永久歯のむし歯本数は、2017年度は1.2本、2020年度は1.0本、2021年度は0.8本、2022年度は0.5本となっている。小学校の保護者にはオンライン説明会や文書配布など、保育所ではお迎えの時間に対面での説明などを行った。



鶴谷さとみ

Q 認知症サポート医による「もの忘れ相談会」の実施回数及び市内各地域での開催の検討は。

A 事業開始から3年。相談実績は横ばい状況。開催方法の見直しや相談利用しやすい内容を検討し周知に努める。

Q 市内各公園の草刈り等の作業スケジュールは。

A 草刈りは、公園の規模により年3~4回実施。1回の作業期間が1ヶ月程度で、草の伸び具合を確認しながら実施している。

Q 携帯電話基地局、太陽光パネルの建設に関する景観法の意見照会の状況は。

A 携帯電話基地局は、東部地区で高さ20m、40mの2件(2022年度)、太陽光パネルは、東部地区で1万500平米、西部地区で5万6,900平米の2件(2023年度)の意見照会があった。

市民ネットワーク北海道会派視察

2023年4月 北海道内公立校で初導入  
インクルーシブ教育の実践

はなさきみなど

/根室市立花咲港小学校

「自分らしく在るための選択や決定を尊重する教育の実現」を掲げ、ドイツ発祥のイェナプランを参考に考えられた「だれも取り残さない」という根室モデルについて波岸教育長から説明を受け、



授業を参観。自分で決めた時間割で、先生のサポートを受けながら、それぞれの勉強に取り組んでいました。

8/27・28

せっけん購入助成制度/厚岸町

かき 牡蠣の生産で有名な厚岸町は、豊かな海を守る観点から1997年より、全国でも珍しいせっけん購入助成制度を導入。助成対象は固形せっけんをはじめ洗濯せっけん、歯みがき、シャンプーなど17社の179品目と多数あり、多くの町民が石けんをリピート購入している状況等を伺いました。



ゴジカラ村という暮らしかた ながくて  
社会福祉法人 愛知たいようの杜/長久手市

11/24・25・26

「午後5時から」の時間に追われない暮らしかたを目ざし、1981年に開設。約1万坪の雑木林に自然を残す視点で設計された施設は、特養・デイサービス・訪問看護ステーション等々があり利用者は約700人。敷地内にある幼稚園や一時預かりを利用する親子、ボランティア等、人の気配を感じながら暮らす時間を大切に運営されています。



子どもの権利条約フォーラム2023inとよた /愛知県豊田市

「子どもの権利」は私たちが普遍的にもつ人権そのものであり、おとなには子どもの権利を守る責務があります。フォーラムでは全国各地から集まった子どもたちによるさまざまな発表や、おとなを交えたパネルディスカッションが行われ、胸が熱くなりました。しかし、おとなの都合で子どもの権利があっさり抑圧されてしまうことも事実です。



貧困や格差など、おとな社会の歪みから子どもたちを守る社会を作っていきましょう。